

走行風景と連動したエンジンの音と振動によるバイクシミュレータ酔いの低減効果：ポータブル型振動刺激装置の有効性の検証（研究の成果発表）

著者	加藤 達弥, 板口 典弘, 澤田 悠伎, 宮城 拓弥, 上田 誠也, 宮崎 真
雑誌名	情報学シンポジウム2019
巻	2019
ページ	J21
発行年	2019-12-24
出版者	情報学シンポジウム2019実行委員会
著者版フラグ	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027441

走行風景と連動したエンジンの音と振動によるバイクシミュレータ酔いの低減効果：ポータブル型振動刺激装置の有効性の検証

加藤達弥(行動情報学科), 板口典弘(学術院情報学領域), 澤田悠伎(情報科学科), 宮城拓弥(情報学専攻), 上田誠也(情報学専攻), 宮崎真(学術院情報学領域)

バイク運転者の行動評価を安全に行う為にはシミュレータの利用が有効である。その一方で、シミュレータ酔いの問題が伴う。最近、バイク型 VR シミュレータを体験中の参加者に走行風景と連動したエンジンの音と振動を呈示することでシミュレータ酔いが低減できることが報告された (Aigo et al. 2019, 林ら. 2019)。これらの先行研究では、振動をバイク型筐体の座面から呈示していた。本研究は、バイク本体への組み込みを必要としないポータブル型振動刺激装置による酔いの低減法の可能性を検証することを目的とし、ペンダント型刺激装置の有効性を検証した。実験の結果、ペンダント型振動装置による有意な酔い低減効果は認められなかった。このことから、振動刺激による酔いの低減効果を安定して得るためには、現実に即した位置から振動を呈示することが必要であることが示唆された。